

「第8回 信州 知の連携フォーラム」

公民館を拠点とした
地域住民による区誌編纂の取り組み

～県内・県外の様々な機関と連携した
地域資料のデジタル化事業を核として～

駒ヶ根市立東伊那公民館長

春日由紀夫



駒ヶ根市東伊那地区
戸数 約500戸
人口 約1,800名

東伊那のシンボル
「高鳥谷山」



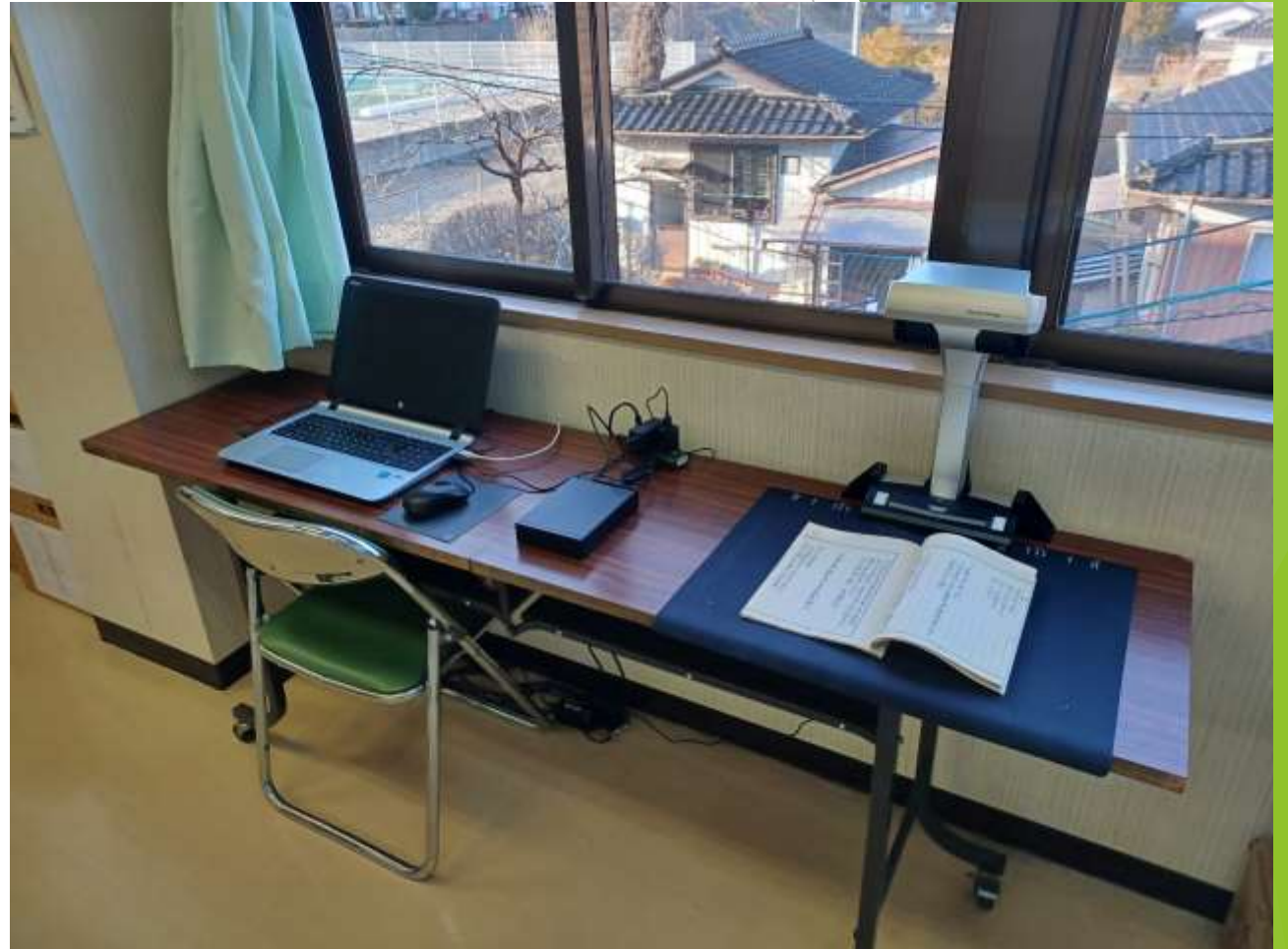
- ・ 明治 8 年、旧高遠藩中沢郷の五ヶ村が一緒になり東伊那村が誕生
- ・ 昭和 2 9 年赤穂町、中沢村と合併して駒ヶ根市東伊那区となる

区誌編纂のコンセプト

1. オールカラーで三分冊「手に取って見やすい、読んで楽しい、私たちの区誌」
2. アナログとデジタルの良いところを取り入れたハイブリッド風土記
3. 地域資料研究の更新も見据えた区誌全体のデジタル化
4. 今だから聞ける、今でしか聞けない「東伊那の思い出」収集

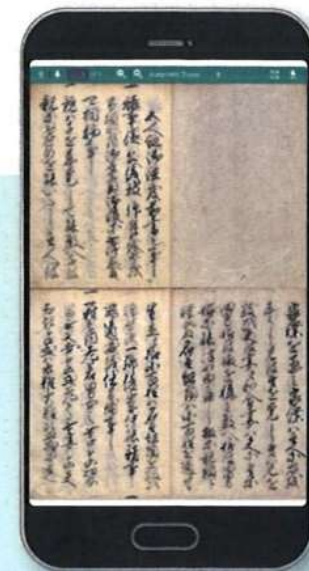
地域資料の「デジタル化事業」

- (1) 県立図書館デジタルアーカイブ事業との連携（保存）
- (2) デジタル化による地域研究の更新（東伊那学の誕生）
- (3) 地域デジタルボランティアの募集・育成（Society5.0）
- (4) 中高大生のデジタル化事業への参画（地域文化の継承）



A4オールカラー
500ページ(3分冊)

現在 編集作業進行中



ICTで資料のデジタル化も

県立長野図書館のご協力により、今回ご提供いただいた古文書などをデジタル化して「信州デジタルコモンズ」へ登録します。誌面ではご紹介できない資料もQRコード読み取りにより、より多くの情報をご覧いただけるようになります。

テストサイト
QR





デジタル化を進める
「デジタル七人の侍」

地域資料の「デジタル化事業」 その後の進展



古文書デジタルスキャンの手順

文書をスキャナーにセット

専用ソフトでスキャン
全てのページをスキャン
するまで繰り返す

専用ソフトでスキャン
結果の確認
必要に応じて切出し範囲の修正

ファイルに保存
目録の名前でフォルダを作成し保存する



古文書デジタルスキンの工夫

手順書の作成

手順書を作成し、誰でもできるように

保存ルールの明確化

ファイル名の付け方を単純なルールで明確にする

ルールは厳格にしすぎない

手順やルールは定めるが、あまり厳格にしない。
古文書は様々な形態があるので、柔軟に対応できるようにする。
例えば、文書が厚い場合は、いくつかのファイルに分かれてもいいことにしている。
(あとから編集して1つにまとめることも可能なので)

古文書デジタル化手順（冊子編）
Ver2.00 2023.08.09

1. 準備
 - パソコンの起動
 - アプリの起動（Scan Snap Home アイコンをダブルクリック）
 - ScanSnap の電源を入れる。本体の Stop ボタンを押す（電源が入るとブルーのランプが付く）
2. 古文書準備（写真の場合は別紙参照）
 - 目録からスキャンする資料を確認し、袋から取り出す
 - スキャナーの黒い布の上に古文書を置く
3. スキャン
 - ソフトの画面左上にある **Scan** ボタンを押すと下の画面が出ます。
 ここで、【フォルダに保存】を選びます。（もしくは、【裏映り軽減なし】を選びます。1枚もの場合はこちらの方が文字が消えずにスキャンできるかも知れません。）
 - 表紙から1ページごとスキャンしていきます。スキャンしたいページを広げ、スキャナーのスキャンボタンを押します。（画面の SCAN ボタンでも動作します）
 - スキャンされた画像はパソコン上に表示されます。
 - 次のページを広げます
 - 画面の「継続してスキャン」もしくはスキャナーのスキャンボタンを押すことで、次の取込が始まります。
 - これを繰り返して、背表紙までスキャンして下さい。

古文書デジタルスキヤンの課題

ある程度PCの操作に慣れている必要がある

ソフトを使ってスキヤンするため、ある程度PCの操作に慣れていないと難しいかも知れない。（ファイル名の入力など）

時間がかかる

スキヤンにはかなりの時間がかかる。1冊のスキヤンを終えるのに、数時間かかることもある

文書の形態がまちまち

古文書は、冊子だったり巻物だったりと形状がまちまち。
また、大きさも様々である。裏写りしやすい薄い紙も多い。
このため、一律の方法でスキヤンが出来ない。

古文書解読から見えてくるもの



- ▶ 古文書から、地域の先人達の活動の痕跡が見えてくる。
- ▶ 農民は「死なぬよう生かさぬよう」な生活を強いられた貧しい人々ばかりではない。
- ▶ 高遠藩は江戸稼ぎや旅稼ぎを奨励。運上金を取り立てたが、その他は稼いだ者の収入にしてよいこととした。

仁兵衛殿、私たちのところの忝が日本橋本船町番屋にて住み込みで仕事をさせてもらえることになったのですが、身元金が必要なので金15両貸してください！

（借主の弥左衛門町番屋七兵衛・民次郎、受人の新肴町番屋作兵衛より）

古文書解読から見えてくるもの



- ▶ 東伊那の人の中には江戸に店を構えて商売をする者も現れたと思われる。
- ▶ 江戸に住む者が東伊那の農民から借金をしているため、江戸稼ぎに出たまではよかったが、資金がなく、故郷の金持ちに頼み込んだのでは？

惣右衛門殿・常右衛門殿、私たちは商売の身元金とどうしても必要なことに使うためのお金がないので金5両貸してください！

(借主の時野新道番人角治郎・本銀町一丁目番人長五郎、本材木町口入番才兵衛より)

地域資料の「デジタル化事業」

成果と課題

- ▶ デジタルアーカイブに対する理解の深化
- ▶ 地域資料に対する意識の変化
(大切にしようという意識の醸成)
- ▶ 地域文化に対する誇りの育成
- ▶ 様々な機関との連携強化
(博物館・図書館・大学)

- ▶ 具体的な作業に取り組んでくれる方の確保 (募集から育成へ)
- ▶ 機材の充実と更新
- ▶ 予算確保の難しさ
(補助金の活用)
- ▶ 収集した地域資料の保管方法
(博物館連携・資料室?)
- ▶ 活動の継続方法
(公民館講座・郷土研究会)

区誌編纂事業の地域への広がり 1

【地域への広報活動】

1. 定期的に区誌編さん便りを発行して区誌編纂への理解を深めると共に、区誌編纂に関わる研究成果発表の場としても活用する。
 2. SNSを活用した情報の共有
- ◆多様な世代に向けての情報発信として活用する。



区誌編纂事業の地域への広がり 2

「第3回東伊那再発見講座」

～ふるさと東伊那の産業「瓦」～



東伊那公民館とコラボして立ち上げた「東伊那再発見講座」も3回目となりました。

今回の講座では、東伊那の瓦産業と瓦の材料となった粘土に関係した東伊那の地層について大沼宗重編集委員と北澤夏樹執筆協力者のお二人にお話をいただきました。

大沼宗重委員からは、知っているようで実はよく知らない「瓦」について、その製造方法や瓦の種類、瓦の歴史等について詳しく解説していただきました。瓦について新たな視点を提供していただ

いたように思います。更に東伊那における瓦産業の歴史についても資料を提示しながら分かりやすく説明していただきました。今はなくなってしまった「瓦産業」が東伊那の暮らしを支えてくれていたことがよく分かりました。東伊那で沢山製造された瓦が、「東伊那のいぶし瓦」の名で多くの屋根に使われていたことに誇りを感じました。郷土の誇り再発見にも繋がったと思います。

執筆協力者の北澤さんからは専門家の見地から東伊那の地層の成り立ちや瓦の原料となった「粘土」の出来方等について解説していただきました。東伊那が一時期湖の底にあったというお話には驚かされました。（その時の堆積物が粘土になったそうです）地球のダイナミックな変動に改めて感動しました。



今回初めて編集委員のメンバーが発表に取り組みました。区誌編集を通して研究した内容を地域の皆さんに発表できることは素晴らしいことだと思います。これからも継続していきたいと思

3. 研究成果を地域に発信！！

「東伊那再発見講座」

- （1）区誌編纂に関わって研究してきた内容を地域の皆さんに伝える場
- （2）普段何気なく過ごしている東伊那の本当の素晴らしさや価値に気づく場
- （3）地域の多様な研究者のアウトプットの間



上伊那の全酒蔵参加！！
「**利き酒会**」も楽しみました

酒蔵の社長さんによる
「**酒講演会**」も実施！！



区誌編纂事業の地域への広がり 3

【語り継ぐ地域誌】

「昔の東伊那を語る会」

- (1) 地域の大先輩に今でしか聞けない昔の東伊那の様子や言い伝え等を記録する。
- (2) 大先輩方にも自分の経験を語り残したいという気持ちがあり、その希望を実現する場を提供することで生きがいづくりにつながる。

「昔の東伊那を語る会」 今話題の「語り継ぐ地域史」



様子等について自由
い内容も多くとても
生活（特に昆虫食）
した。今回語って頂
地域資料として大切
ありがとうございました。

昨年度から取り組んでいる「昔の東伊那を語る会」も4回目を迎えました。今回お話を伺ったのは、市村義一さん、宮北修治郎さん、福澤春子さん、下平益三さん、湯澤敏幸さんの5名です。2日間にわたってじっくりお話を伺うことができました。ご協力頂いた皆様には心から御礼申し上げます。



今回の語る会では、地区に伝えられる地名の由来、炭焼の様子、養蚕の様子、学校生活のに語って頂きました。今まで聞いたことのない興味深く伺うことができました。また、昔の食についても興味深いお話を伺うことができました内容は区誌編集に生かすと共に、貴重なに保管・活用していきたいと考えています。あ



まいの多くの方がこの取り組みに参加していただけることを願っています。
どうか宜しくお願いいたします。

今回の語る会からは、アド・プランニングの伊藤委員さんに協力していただき映像としても記録していくことになりました。今までの音声中心の記録から映像での保存記録に進化させていきたいと考えています。地域にお住



区誌編纂事業の地域への広がり 4

【現在の生態系を記録】 「東伊那シチズンラボ」

- (1) シチズンサイエンスの手法を取り入れて地域の現在の生態調査に取り組む。
- (2) 調査方法を確立し、調査体制を整えることで今後も地域の生態系調査を継続することができる。

せい そく どう ぶつ 東伊那に生息する動物たち ちよう さ アンケート調査



現在、東伊那公民館では東伊那区誌を作るなかで、区民の皆さまにいろいろとご協力いただき、感謝申し上げます。さて今回のアンケートは、東伊那に生息する動物たちの目撃情報を収集するものです。情報をお持ちの方は、別紙の地図上に目撃場所を番号で記載し、下記の項目に答えていただけないでしょうか。いただいた情報を基に、現在どのような動物たちが東伊那に生息し、どのように生活しているかを区誌中で紹介したいと考えています。

区誌編纂事業の地域への広がり 5

「+ 東伊那」の学習支援

- (1) 東伊那小学校の先生方の地域研修をコーディネートして、東伊那への理解を深めていただく。
- (2) 社会科等の教科学習と関連する地域の学習材や東伊那ならではの学びを提供する。
- (3) 地域を題材とした総合学習への多様な支援に取り組む。



区誌編纂事業の地域への広がり 6

【中学生との共同学習】

「ふるさと学習」

- (1) 地域に残る文化遺産を調査し、
学習成果を文化祭で発表
- (2) 地域資料のデジタル化作業に
中学生が体験参加
- (3) 中学生による地区外の方への
文化財説明ボランティア



区誌編纂事業の地域への広がり 7



高遠藩からの贈り物
「百五十年ぶりに再会した兜達」
【地域のお宝再発見】

駒ヶ根市伊那耕地 伊那森神社 寄進具足【全体のイメージ】

(表面)



(裏面)



※地域の「甲冑研究家」による調査成果もアーカイブ

(注)各画像の縮尺は不統一。

区誌編纂事業の地域への広がり

『東伊那 150 周年PROJECT』



「楽しみ」から始めよう

— 「地域を知る」ってどんなこと？ —

- ▶ 様々な機関と継続的に交流し、共催講座を企画するなど共に活動する場を設定して意思疎通を図り、「仲良し」になる。
- ▶ 「地域資料の発掘」は公民館、「地域資料の登録・保存」は博物館や南信工科大等、得意分野での役割分担で質の高いアーカイブを構築する。互いに刺激し合い、わくわく感を大切にしながら実践する。
- ▶ 「地域文化への尊敬の念」を共有し、同じ目的（理念）に向かって共に努力する。

「楽しみ」から始めよう

— 「地域を知る」ってどんなこと？ —

- ▶ 「地域を**知る**」楽しみ
- ▶ 「地域で**つながる**」楽しみ
- ▶ 「地域を**開く**」楽しみ
- ▶ 「地域を**続ける**」楽しみ

「第8回 信州 知の連携フォーラム」

公民館を拠点とした
地域住民による区誌編纂の取り組み

～県内・県外の様々な機関と連携した
地域資料のデジタル化事業を核として～

駒ヶ根市立東伊那公民館長

春日由紀夫